

国語科学習指導案

〇〇〇〇高等学校
授業者 〇〇 〇〇

1. 対象 第1学年〇組

2. 日時 平成27年〇月〇日（金）第〇限

3. 単元名 『なめとこ山の熊』

4. 生徒観

〈省略〉

5. 教材観

本教材は、宮沢賢治によって書かれた文学的文章である。まずは、本教材のあらすじを示す。

中心人物である淵沢小十郎はなめとこ山に住む熊捕りの名人である。熊の命を奪って生きることには抵抗を感じながらも、母と孫五人を養うために捕まえている。米を買うために町にも出かけるが、町に出たときの小十郎は山での豪儀な様子と対照的である。捕ってきた熊の毛皮や胆は商品としてしか見ていない荒物屋の主人によって安く買い叩かれてしまう。それでも、お金に替えることができて小十郎は喜ぶ。熊とは心が通じ合う関係で互いが信頼し合う間柄であったものの、最後は熊に殺されてしまう。死後、熊たちによって弔われ、魂は救われたかのように見える。

生きていくためには命のやり取りをしなければならないという運命と向き合う小十郎の葛藤が描かれている。また、作品の途中で読者に向かって主張を始める不安定な語り手は作品の特徴といえるだろう。

次に、本教材と学習活動を通して得られる力について述べる。本単元で得られるのは、場面ごとに心情を読み取れる力である。

たとえば、荒物屋の主人によって熊の毛皮が二円で買い取られた際の小十郎の心情を読み取ろうとすると、本文中の『『どうがなんぼでもいいはんで買ってこない』、「小十郎はそれ（※銀貨）を押しいただくようにしてにかにかしながら受け取った」という二つの表現が手掛かりとなる。そこから、「熊の毛皮が売れてうれしい」という心情を読み取ることができる。作品世界の設定²との整合性を保とうとすれば、「思っていたよりも熊の毛皮が安いと思う」というような読みにはなり得ない。

このように表現を読み取り、意味付けること、つまり解釈行為は学習者の読みを作るための手続きである。その結果が全体との整合性を保つことができているのか、言い換えるならば妥当性はあるのかということを授業の中で試す。試行を通して、読み取りが精緻になると考えている。

6. 指導観

今回の研究授業に際して、生徒の実態から場面ごとの人物の心情の読み取りに課題があると捉え、改善することができるよう単元を計画した。要点は次の二点である。

一点目は、読解の際に生じた疑問を積極的に取り上げることである。疑問を解決するためには本文を読み、思考する必要が生じる。学習者自身が本文の表現に立ち返って読むように必然性を持たせた。

授業で扱う疑問は、単元計画の段階で指導者が予測したことだけではない。初読の後、プリントに疑問点を記入する時間を設けた。そこから得られたことも授業に反映させる。なお、初読後の時間には「フィードバックシ

ート」という名称で各生徒の意見を集めたプリントを配付する。このシートは、授業の時間内に紹介することができなかった意見や疑問を共有することを目的として作成している。

二点目は、内容理解の際に表現の確認を意識的に行うことである。これまでの学習者の様子から表現（ここでは単語レベル）の理解を確認する場面を従来よりも多く設定した。文章読解という観点から極力、言葉からイメージできるように心がけたが、視覚的に捉えたほうが印象に残ると思われる箇所（小十郎の服装や装備品）に関しては画像を提示した。

今回の単元では、第1時と第10時にそれぞれ感想を記入する時間を設けている。第1時分は初読の感想にあたり、一読した直後の印象であったが、内容理解を終えた第10時に改めて問うことで読みの変化を見取りたい。

7. 単元目標

- ・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとしている。（関心・意欲・態度）
- ・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。（読む能力）
- ・文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方を理解し、語彙を豊かにする。（知識・理解）

8. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとしている。	・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことができる。	・文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方を理解し、語彙を豊かにしている。

9. 単元指導計画 全10時間

時数	学習活動	指導者の指導・支援	評価観点 (評価方法)
1	○本文を通読する（一文読み）。 ○印象的な場面、疑問点、感想を書く。	・銃が用いられた既習教材を想起させ、そのような教材に共通する命のやり取りが繰り広げられる様子に注目するよう促す。	関心・意欲・態度、 読む能力 (ワークシート)
2	○第一場面の前半部を読み、物語の設定（なめとこ山の様子・小十郎の様子）を捉える。	・言葉から小十郎のイメージを広げた後、写真を通して当時の猟師の様子を確認させる。	知識・理解 (意味調べプリント)
3	○第一場面の後半部を読み、なぜ小十郎は猟師をしているのか理解する。	・お金を稼ぐ手段として、猟師をしていることを小十郎の発言から読み取らせる。	関心・意欲・態度 (ノート)
4	○熊を捕るときの小十郎がどのような思いをしているか考える。 ○母子熊のやり取りを見かけたときの小十郎の心情を読み取る。	・「犬もすっかりしょげかえって」、「ぐんなりしたふうで」などの表現から小十郎が熊を捕まえることに抵抗を感じていることを読み取らせる。 ・どうして「風があっちへ行くなと」小十郎が思ったのか理由を考えさせる。	読む能力 (発言) 読む能力 (行動観察)

5	○主人との会話から小十郎の山と町での態度の違いについて理解する。 ○狐けんの内容を理解し、作品世界の三者の関係について考える。 ○語り手の怒りの内容を捉える。	・ ロールプレイを通して、「まるでしわがれたような声」で主人に頼み込む小十郎の心情に注目させる。 ・ 狐けんが現実には成立していないことを考えさせる。 ・ 主人と小十郎との関係性を捉えた後、語り手が言及している内容について読み取るように促す。	
6 7	○第三場面の熊との関わりから小十郎の考えを読み取る。	・ 小十郎の家族構成を想起させ、小十郎は家族のために捕まえなければならないという背景を読み取らせる。	
8	○第四場面の小十郎の言葉から冒頭部の設定との変化を捉え、次の場面への伏線になっていることを理解する。	・ 「水へ入るの嫌んなよな気するじゃ。」という表現から小十郎の変化の内容を考えさせる（猟に対する態度面や身体的な側面）。	
9	○第五場面を読み、小十郎が銃を撃ち損じた理由について考える。 ○死が救済になったのではない点を理解する。	・ 第五場面冒頭部の叙述を読み取り、理由を考えさせる。 ・ 結末部のなめとこ山で行われた出来事の様子を捉えさせる。	
10 本時	○熊たちの小十郎に対する心情について考える。	・ 小十郎と熊が分かり合えることは何かを考えるように促す。 ・ 本文の表現をもとに、なぜ熊は小十郎のことが好きだったのかということについて自分なりの解釈をさせる。	読む能力 (ワークシート)

10. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・ 熊たちの小十郎に対する心情について、本文の表現をもとに考える。

(2) 本時の評価規準

- ・ 熊たちの小十郎に対する心情について、本文の表現をもとに自らの解釈を書くことができる。(読む能力)

(3) 評価基準

ワークシートのループリック (予定)

	A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する
読む能力	本文の表現を用いて、熊が小十郎に対して抱いている感情について、文脈の深い理解を踏まえた解釈を書くことができる。	本文の表現を用いて、熊が小十郎に対して抱いている感情について、解釈を書くことができる。	本文の表現を用いて、解釈を書くことができていない。

(4) 本時の学習過程 (10/10)

時間	学習活動	指導者の指導・支援	評価観点（評価方法）
導入 5分	1. 前時の振り返りと本時の目標を確認する。	生徒用の目標…本文の表現をもとに、熊たちの小十郎に対する気持ちについて自分の解釈を書くことができる。	
	熊たちの小十郎に対する気持ちはどのようなものだったか。		
展開 40分	2. 熊たちの小十郎に対する気持ちが読み取れる表現を本文から抜き出す。	○動作・表情・セリフに表れていることを確認させる。	
	3. 抜き出した表現に対する自らの考えを書く。	○熊は小十郎のことをどう思っていたのか記入させる。 ○熊と小十郎が互いに理解できること（共通部分）はないか考えさせる。	
	4. 抜き出した表現とその表現に対する自らの考えをグループ内で共有するとともに、熊たちの小十郎に対する気持ちはどのようなものであったか考えを話し合う。	○それぞれがどのような表現を抜き出したのかグループ内で共有させる。 ○他の人の意見に対して自分はどのように考えているのかが分かるようにワークシートに記入させる。	
	5. グループで話し合った内容を全体に発表する。	○発表は2～3グループを目安とする。	
	6. グループにおける話し合いの内容を参考にするとともに、抜き出した表現を用いて自分の解釈を書く。	○本文の表現をもとにして書くように促す。 ○早く書き終わった生徒には他の人が読んでも納得する内容であるか再考させる。 ○書くことができていない生徒に対しては机間支援の際、抜き出した表現の中からどの言葉を用いるのか個別に尋ねながら書くように促す。	
まとめ 5分	7. 『なめとこ山の熊』を読み終えた現時点の感想を書く。		読む能力 （ワークシート・記述の点検）

注釈

（１ 考查問題の解答状況とは、『羅生門』の一場面における下人の心情を答える問題（選択式）で誤答の選択肢を選ぶ生徒が指導者自身の予想よりも多かったということである。

（２ 家族を養うためには少しでも米が必要であり、家で米が作れない小十郎にとっては米を買うためのお金がいるという設定。

【資料】学習指導要領における対応関係

	中学校学習指導要領	高等学校学習指導要領
教科目標	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。
指導事項 (C 読むこと)	※第三学年の事項から抜粋 イ 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方を捉え、内容の理解に役立てること。	※国語総合から抜粋 ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。

〈ご高評〉